



名授業ビデオや講習

「教師の腕」向上に一役

セミナーに
300人参加

学校週5日制実施で教師の教える力が問われる中、東海地方の教師が中心になって「授業の腕を磨く試みが続いている。名づけて「教師力アップの会」。全国の約300人の現役教師が有名講師のセミナーに参加したり、模範授業のビデオを作ったり。「子どもたちを救えるのは現場の教師だけ」とメンバーは意気込みを新たにしている。ビデオなどを使った授

業の研究会を主催する愛知県小牧市立小牧中学校の玉置崇教頭(47)が昨年5月、仲間の教師らに結成を呼びかけた。「カリキュラムを消化するのがやっとの若手教師たちに、授業のノウハウを伝えたい」と考えた。活動の中心は、月1回のペースで開く「教師力アップセミナー」。「授業名人」と言われる教育者や心理学者、自治体の教育長らを招いて、教育

の基本的な考え方から授業のテクニックまで2時間の講義を受ける。「モヤモヤが吹っ切れた」「明日の授業で試してみよう」。参加した教師たちの評判は上々で、結成時200人だった参加者は2年目の今年、300人を超えた。来年1月にはNPO法人化を目指す。今後は、優れた授業例

や解説を収めた研修用ビデオの作製を計画している。第一線で活躍する教師の授業を撮影し、他の教師たちが「うまい」「まねしたい」と思う場面を編集。全国の教師がいつでも勉強できるようにビデオシリーズ化する。「現場で蓄積した『知恵』を交換する場がなかった。会が全国の教師をつなぐパイプ役になればいい」と玉置さん。同会への問い合わせは、小牧中の玉置教頭(0568・77・6321)へ。